NANTAN

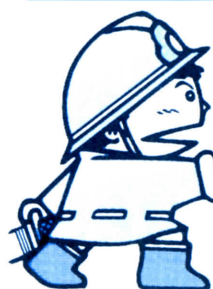
119だより

NANTAN FIRE DEPARTMENT

2013

No. 2

東河小学校４年生　社会見学

災害状況

10月20日現在

・火災…　34 件

・救急…　2,354 件

・救助…　62 件

主な内容

住宅用火災警報器に関する調査

▲末歳区防災訓練・住警器に関する説明

消防本部では、住宅用火災警報器(以下、住警器という)に関する市民の皆さんの意識と設置状況及び維持管理状況を探るため、養父・朝来の両市におけるアンケート調査を実施しました。

今回は両市内の居住者500人を対象に実施したところ、239人(47・8%)から回答があり、193人(80・8%)という設置数(率)が得られました。

この設置数のほか、今回の調査結果から住民の皆様方が住警器に関してどのような意識を持っておられるかなどを把握し、今後の住宅防火対策の推進に役立てたいと考えています。

地域別住警器の設置数(率)

住警器を「既に設置している」と答えた人は193人(80・8%)でした。

この数値は、先ごろ発表された平成25年6月1日時点の全国の推計普及率79・8%と比べると1ポイント上回っていますが、兵庫県の推計普及率83・8%より3ポイント低い結果となりました。そして、南但の推計普及率95・6%からは14・8ポイント低くなっています。

しかし、「まだ設置していないが、すぐに設置したい」と答えた人が23人(9・6%)、「リフォームなどの機会を待って設置したい」が7人(2・9%)あり、既に設置している人を合わせれば、今後の設置率は93・3%を見込むことができるようになります。(図1参照)

設置意欲を持たれている方にはもちろんのこと、「わからない」「今後も設置は考えていない」と答えた人たちに対しても、さらなる推進活動を展開し、普及に努めたいと思います。

なお、各地域別の設置率をみてみると、朝来が30人中28人で93・3%、関宮が10人中9人で90・0%、和田山が76人中67人で88・2%、生野が22人中19人で86・4%、山東が21人中17人で81・0%、大屋が22人中16人で72・7%、八鹿が29人中21人で72・4%、養父が29人中16人で55・2%でした。

住警器の設置状況は

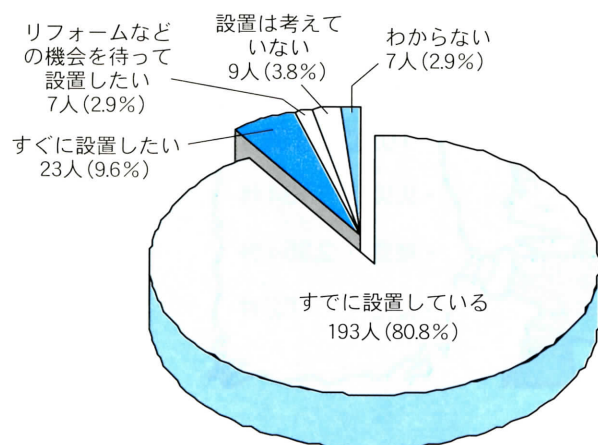
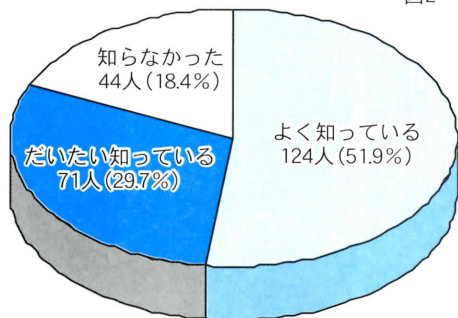



図1

住警器の設置場所

次に住警器の設置場所について、『南但広域行政事務組合の条例では原則として寝室に設置し、寝室が2階にある場合は階段上部にも煙式の警報器を設置することとなっていますがご存知ですか』と尋ねると、「よく知っている」と答えた人が半数以上の124人(51・9%)ありました。また、「だいたい知っている」という人も71人(29・7%)あり、条例で定められた設置場所については多くの人が理解されているようです。(図2参照)

ただし、条例では定められてはいないものの、多くの方が一番に設置されていたのが「台所」でした。やはり、火を使用する機会が多いことからの数値かと思われます。

続いて「1階寝室」「2階寝室」「寝室がある2階の階段踊り場」「廊下」などといった順になっています。

（図3参照）

その他の場所では、就寝時を除いて一番多く生活する場となる居間がほとんどで、仏間や離れといった回答もありました。

そこで「すでに設置している」と答えた人に設置された感想を尋ねると、「条例どおりに設置したので安心している」「設置個数は不足しているが、とりあえず安心している」と答えた人を合わせると63・2％ありました。

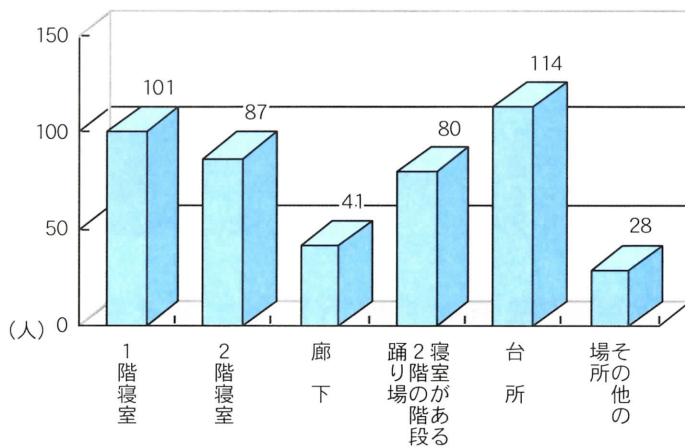
一方、「これで安心とは思わないという人も28・5％あり、引き続き備えへの意欲を持たれているようです。

条例で定められた住警器の設置場所は

図2

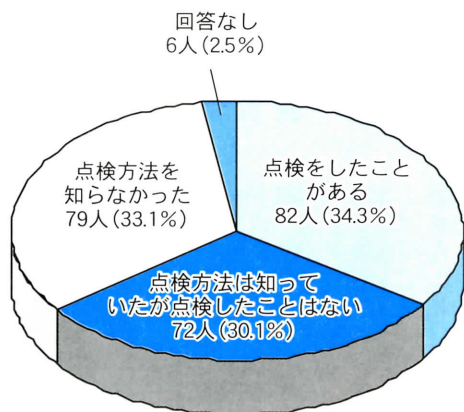
設置された場所は

図3

場所	人数（人）
1階寝室	101
2階寝室	87
廊下	41
寝室がある2階の階段踊り場	80
台所	114
その他の場所	28

住警器の維持管理状況

住警器の維持管理について、『住警器は電池切れが近づくと火災の音とは違う音で知らせたり、ランプがある場合には点滅して知らせたりすることをご存知ですか』と尋ねると、「知っていた」「気付いて交換したことがある」と答えた人が合わせて95人（39・8）％ありました。

しかし、「知らなかった」「知っていたが交換方法がわからない」と答えた人が合わせて１４４人（60・2％）ありました。

住警器の点検は

この結果を踏まえ、住警器の電池切れに注意していただけるような広報をしていきたいと思います。

また、『住警器が火災の時にきちんと作動するように、点検ボタンを押したり引きひもを引いたりして、警報音がしっかり鳴るかどうか点検をしたことがありますか』との定期点検について尋ねると、「点検をしたことがある」が82人（34・3％）、「点検方法は知っていたが点検したことはない」が72人（30・1％）、「点検方法を知らなかった」が79人（33・1％）という結果になりました。

電池切れに対する日頃からの注意とともに、点検方法及び定期的な点検の大切さを機会があるごとに説明していきたいと思います。

図4

住宅火災から死者を出さないために

毎年多くの方が、住宅火災での逃げ遅れなどにより亡くなっています。昨年も全国で建物火災における死者が１３００人を超える中、その内の9割近くが住宅火災によるものでした。そして、犠牲者の6割以上が65歳以上の高齢者となっています。また、犠牲者の多くが、誰もが就寝する深夜の時間帯に発生しています。

昼間の火災も当然ですが、就寝中に発生した住宅火災の早期発見には住警器が非常に有効です。早期発見と素早い避難によって、尊い命を守るためにも、住警器を未設置のお宅は一日でも早い設置をお願いいたします。

消防本部では今回の調査結果を踏まえ、住警器の普及啓発をより一層推進すると共に、適正な維持管理についても情報提供を続けていきます。そのためにも、消防団や関係機関の協力を得て、住民の皆さんと直接対話する場に積極的に出向いて行きます。そして、安全・安心な街づくりに努めていきたいと考えています。

養父市及び朝来市から住宅火災による死者を出さないために、今後も住警器に関する調査を継続していき、結果を住民の皆様の暮らしに役立てたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

三機関による合同山岳救助訓練（氷ノ山）

養父消防署では、平成25年9月20日、養父市福定「氷ノ山山頂」において兵庫県消防防災航空隊（以下航空隊）及び鳥取県東部広域行政管理組合との三機関による合同山岳救助訓練を実施しました。この訓練は、救助隊員の安全・確実・迅速な救助活動の習得と航空隊との連携強化を目的に実施しました。

訓練は、「氷ノ山を登山中の30代男性が山頂付近で意識もうろうとなり倒れた」という想定で開始し、養父消防署から指揮隊、救助隊が出動すると共に救出に長時間を要すると予想されるため、航空隊への応援を要請しました。

▲救出に向かう救助隊

指揮隊が氷ノ山大段ヶ平（おおだんがなる）に到着、直ちに現場指揮本部を設置。救助隊7名が、更に資機材を割り振り、山頂へ向け登山を開始しました。実災害であれば、重装備でも約45分で登頂しますが、今回は訓練での登山のため、登山ルートや目標物を確認しながら約1時間で要救助者のいる現場（山頂付近）に着きました。

▲山頂へ到着した救助隊

山頂から約80m地点に要救助者に見立てた隊員を発見。その後、要救助者を担架に乗せ、航空隊がヘリコプターにピックアップしやすいよう、障害物が少ない安全な場所へ移動開始。まもなく航空隊のヘリコプターが氷ノ山山頂へ到着し、ヘリコプターから航空隊員2名がラペリング降下して要救助者と接触しました。接触後はヘリコプターのホイストを使用して要救助者をヘリコプターへ収容、救出し訓練終了。

山岳事故等での救助活動は、救助現場への到着や救出に長時間を要すため、要救助者を安全かつ迅速に救出するには航空隊との連携が必要不可欠となります。当本部では朝来・養父両消防署共に定期的に合同訓練を実施し、航空隊との連携強化に努めています。

氷ノ山山頂からの景色は絶景となっています。市民の皆様も登山の際には体調管理、装備を万全に整え、事故防止の徹底を図り、是非一度登頂し、氷ノ山山頂からの景色を堪能してください。

▲ヘリコプターへ収容中

人命救助協力者に感謝状
救命講習受講で命救う

5月24日、養父市八鹿町石原にある日光院の集会所内で、年配の女性の方が体調不良を訴え、意識を失い倒れた。（心肺停止状態）という事例がありました。

このことを知った大垣美香さん（私立日光保育園副園長）は直ちに現場に駆けつけ観察し、早期に119番に通報するとともに、気道確保・心臓マッサージの救命処置を救急隊到着まで継続して行い人命救助に協力されました。

養父消防署では、6月19日、養父市八鹿町の私立日光保育園で大垣さんの功績を称え、養父消防署長から感謝状と記念品を贈呈しました。

▲感謝状の贈呈

大垣さんは「貴重な経験で、命の尊さを肌で感じることができました。保育園は命を預かるところなので、この経験を生かし、子供たちや皆さんに伝えていけたら良いと思いました。救命講習を受講していなかったら、体が動かなかったかもしれません。普段から講習を受けることが大切です」と述べられました。

▲贈呈後の大垣さん

このたびの大垣さんの勇気ある行動と救命講習の受講経験が、大いに生かされた結果となり、1人の尊い命を救うことに繋がりました。皆さんもぜひ機会があれば救命講習を受講してください。

平成25年度 防火ポスター入選発表

夏休み中に、養父市・朝来市内の小学校及び中学校の児童、生徒から募集した防火ポスターは、総数で1231点（小学校407点、中学校824点）の応募がありました。

9月25日に南但消防本部で行われた審査会の結果、力作ぞろいの作品の中から次の皆さんが入選しました。

最優秀賞

【小学校の部】

福田健佑（ふくだ けんすけ）
梁瀬小学校4年

『野球の投手がピンチの時でも力強く相手の勢いを消す炎のストッパーをイメージして描きました。この作品で火が消えるまで勇気を持って消火活動することが伝わればと思います。最優秀賞を受賞し、最初は信じられませんでしたが、今は素直にうれしいです』

【中学校の部】

戸田彩香（とだ さやか）
和田山中学校3年

『2年連続の受賞と聞き、とても驚きました。この作品は、私たちが実際によく使う電化製品をモチーフにしています。見た人により、防火の事を身近に自分の事として考えていただければと思って描きました』

特別賞

◆養父市消防団長賞
政清梨花
和田山中学校3年

◆朝来市消防団長賞
福田栞和
梁瀬小学校6年

小学校の部

◆優秀賞……9名

中尾　優斗（大屋　1年）
馬袋　築基（梁瀬　2年）
衣川　春香（東河　3年）
坪井　天漢（梁瀬　4年）
大西　司馬（生野　5年）
中村　怜（大蔵　5年）
藤原　亮（枚田　5年）
伍上　扇李（関宮　6年）
高木　斗生（伊佐　6年）

◆入賞……19名

奥　さゆり（梁瀬　1年）
田中　友（梁瀬　1年）
碓井　一星（八鹿　2年）
小林　里菜（枚田　2年）
漆垣　海人（梁瀬　3年）
椿野　彩葉（山口　3年）
中野恵多郎（広谷　4年）
足立　優花（大蔵　4年）
浅田　巴流（東河　4年）
衣川　杏平（梁瀬　4年）
川島　真琴（広谷　5年）
足立　響（生野　5年）
松本じゅり（梁瀬　5年）
加門　紬（中川　5年）
福田和可子（広谷　6年）
米田　岳（広谷　6年）
三木彩己野（広谷　6年）
豊田　大晟（大蔵　6年）
西村　悠叶（枚田　6年）

中学校の部

◆優秀賞……6名

佐々木克聖（生野　1年）
太田　千寛（生野　1年）
丸山　愛加（和田山2年）
馬場　元樹（和田山2年）
田路　莉子（朝来　2年）
城根　里彩（朝来　3年）

◆入賞……12名

池口　聖汰（養父　1年）
勝原　大介（養父　1年）
齋藤エリカ（八鹿青渓1年）
中島　弦万（朝来　1年）
中村　琴乃（八鹿青渓2年）
足立　美紀（梁瀬　2年）
谷口　彩夏（朝来　2年）
川會あおい（朝来　2年）
椢垣千賀子（和田山3年）
松本　遥佳（和田山3年）
平松　夏歩（和田山3年）
安達ひな子（朝来　3年）

審査員所感

今年は養父市・朝来市の小中学校から本当にたくさんの作品が寄せられました。どの作品も工夫して描かれ力強く防火を呼びかけていました。

福田健佑さんの作品は、野球少年ならではの発想で元気に描かれています。表現の爽やかさが人を引きつけ、見る人の防火意識を高めます。

二年連続で受賞された戸田彩香さんの作品は、電気製品の接続の様子を構成した高度な作品です。明るく魅力的なデザインで見る人の防火意識を促します。

各入賞作品は自分の視点で捉えた作品が多く、人々に防火を訴える秀作ばかりでした。

養父市立養父中学校
高階　康之

TOPICS 消防写真館

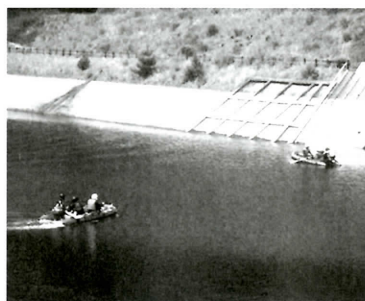
おもなできごと

消防教室（7月6日 南真弓[左]、7月21日 柳原[右]）

地区をあげての消防教室が行われました。地元の消防団員と一緒に、消火器や消火栓を使用して初期消火訓練を体験され、皆さん熱心に取り組まれました。

水難救助訓練

（6月11日 円山川[左]、6月12、13日 金浦調整池[右]）

八鹿町下網場の円山川で急流救助に必要な資器材を使用して朝来署・養父署合同で水難救助訓練を実施しました。翌日には山東町金浦の調整池にて救命ボートの組立から航行訓練等を両消防署及び朝来警察署も参加して行いました。

少年消防クラブ活動

（7月25日氷ノ山）

養父市立伊佐小学校少年消防クラブ４学年児童を対象に氷ノ山登山を実施し、山頂で登山事故に関連する救急講習を行いました。

消防白書

平成25年1月～9月

火災

※火災総数減少

全体の火災件数は32件で、前年同期より３件の減少、朝来署では２件増加しましたが、養父署では５件減少しています。

種別＼署別	総　数	朝来署	養父署
総　数	32 (35)	20 (18)	12 (17)
建　物	10	6	4
林　野	4	2	2
車　両	3	2	1
その他	15	10	5

（　）内は前年同期件数

救急

※福知山爆発火災に応援出動

出場件数は２１９８件、搬送人員は２００３人で、前年同期と比較すると件数で５件、搬送人員で36人と、わずかながら減少しました。

その中で、福知山爆発火災に当本部からも救急車２台が応援出動しました。

種別＼署別	総　数	朝来署	養父署	管　外
総　数	2,198 (2,203)	1,119 (1,100)	1,076 (1,101)	3 (2)
急　病	1,266	673	593	－
交通事故	230	142	88	－
一般負傷	313	157	155	1
そ の 他	389	147	240	2

（　）内は前年同期件数

救助

※交通事故で死者発生

出場件数は62件で、34人を救助しましたが、交通事故で死者が発生しました。

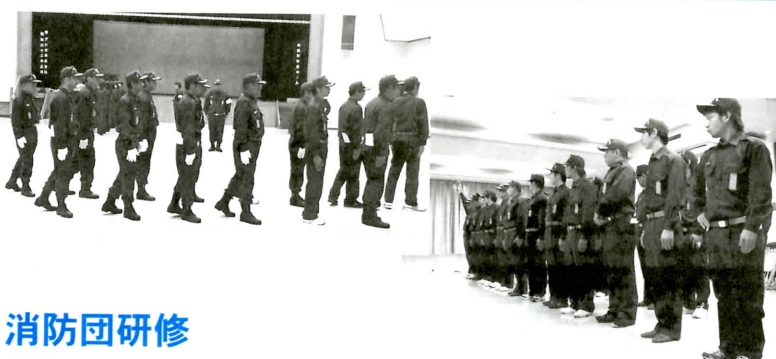
種別＼署別	総　数	朝来署	養父署
総　数	62 (51)	33 (20)	29 (31)
交通事故	39	25	14
機　械	1	1	－
そ の 他	22	7	15

（　）内は前年同期件数

普通救命講習会 （９月12日 全但バス㈱［左］・９月３日 ㈱タクミナ［中］・８月５、19、20日 朝来市内教職員［右］）

全但バス㈱職員の皆さんが、いざという時のために、普通救命講習会を受講されました。

㈱タクミナ従業員の皆さんが職場での万一の事態に備え普通救命講習会を受講されました。

朝来市内小中学校教職員が夏休み中に、学校での急病や事故等に備え、普通救命講習会を受講されました。

消防団研修

（９月１日 山東緑風ホール等）

朝来市消防団員を対象に新入団員研修、女性団員研修、幹部研修を行いました。訓練では訓練礼式や基本操作訓練等を実施し、地域を守っていく消防団員としての基礎を学びました。

水防工法訓練 （６月23日 大屋川河川敷）

養父市消防団員を対象とした水防工法訓練を実施しました。豪雨災害に備えて、団員の皆さん真剣に訓練に取り組まれました。

火災調査レポート

暖房器具による火災に注意

これから寒い時期を迎え、ストーブやファンヒーターなどの暖房器具を使用する機会が増えてきますが、この時期に発生する火災の原因の多くが暖房器具によるものです。

「ストーブ上に干していた洗濯物が落ちた」「石油ストーブに給油中引火した」「電気ストーブのスイッチを入れたまま寝てしまい布団が接触した」等、暖房器具から発生する火災の多くは、間違った使い方やちょっとした不注意が原因です。

これらの原因となる火災を防ぐためには

＊ストーブの上には洗濯物を干さない。

＊ストーブの近くに燃えやすい物を置かない。

＊給油するときは必ず火を消す。

＊石油ストーブのカートリッジタンクの口金は、確実に閉まったことを確認する。

＊就寝前、外出時は必ず火を消す。

＊換気を十分に行う。

＊暖房器具を購入した際は取扱説明書をよく読み、適切な使用を心がける。

これらの注意点をしっかりと守り、安全な暖房器具の取扱いをすることが火災を防ぐことになります。

寒い季節に、暖房器具は欠かせないものです。しかし、使い方を間違えると危険と隣り合わせであることを十分認識し、今一度、暖房器具の取扱いを確認して、火災を起こさないように注意してください。

森の消防署

お知らせ INFORMATION

◆新入職員紹介

【右上】村﨑　淳（22歳）
私は先輩方の指導のもと訓練に励み、一日でも早く信頼を得るよう努力し、市民の方々に安心していただけるような消防士を目指します。

【右下】西田　翔（21歳）
私は半年間の消防学校で得た知識、技術を十分に活かし、市民の皆様の期待に応えられるように日々努力します。

【左上】米田　直哉（18歳）
私は初任教育で学んだことを活かし、早く仕事に慣れるよう日々努力していきたいと思います。

【左下】梶　稜平（22歳）
私は日々訓練に励み、一日でも早く市民の方々に信頼してもらえる消防士になれるように頑張りたいです。

◆資格試験案内

◇危険物取扱者

試験日
平成26年2月9日

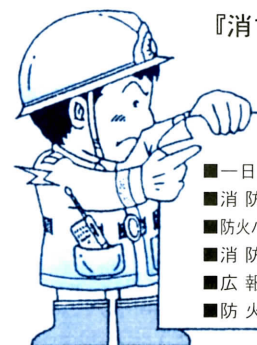
受付期間
平成25年12月11日から12月20日まで（書面申請）

種　別
甲、乙、丙

願書配布は、南但消防本部朝来消防署、養父消防署、生野出張所、大屋出張所の各署所まで

◆普通救命講習

心肺蘇生法やAEDの使用方法など、救急車が来るまでの応急手当を学びませんか。

日時…12月8日(日)
9時から12時まで
場所…朝来消防署
定員…20名（一般市民）
受付…12月3日(火)まで

◆秋の火災予防運動

11月9日から11月15日までの7日間、全国一斉に秋の火災予防運動を実施します。
朝来消防署、養父消防署ともに火災ゼロに向け、万全の態勢で臨みます。

『消すまでは
心の警報　ONのまま』
11月9日～11月15日

主な行事予定

行事	内容
■一日消防官	こども園訪問
■消防訓練	和田山・山東・養父地域
■防火パレード	養父市内
■消防教室	学校、事業所、各地区
■広報活動	防火ポスターの配布
■防火研修	市内の旅館・ホテル

NANTAN 119だより

編集手帳

猛暑の夏、地区の地蔵盆の準備に出かけました。昔は子供たちで提灯の準備をしていましたが、現在は子供が少ないため各戸から夫婦が出て提灯の準備から片付けまで全てします。当日は雨のためか地蔵盆に参る人も疎らでした。
福知山市の花火大会会場で59人の死傷者を出す火災を踏まえて、和田山地蔵祭の露店業者に対し、ガソリンの安全な取扱い等を指導しました。
初めての露店業者の指導とNHKの取材もあり少し緊張しましたが、和田山地蔵祭奉賛会役員の親切な案内もあり、予定通りの防火指導が出来ました。
これから寒くなります。石油ストーブなどの暖房器具の手入れは万全でしょうか。石油ストーブの灯油はガソリンほど引火点が低くないのですが、一旦火災になれば大変危険です。灯油を安全に取り扱いましょう。（ヒ）

NANTAN 119だより第2号
2013年11月1日発行（年3回発行）
■ 発行・編集
南但消防本部予防課
兵庫県朝来市
和田山町枚田436-1
■ TEL 079-672-0119
■ FAX 079-672-5046
南但消防本部